

女+フェスティバル実行委員会

協賛団体募集中！！

※詳しくは裏面を！

予告！！

# 女+フェスティバル

2020年3月8日

2026 ウィングス京都にて



「きっと今からは！」社会が変わって、もっと楽しく、自由に、尊厳を持って女たちは生きていけるはず・・・そんな希望を共有した歴史の時点は何度かありました。「バックラッシュ」の嵐の中でも女たちは、それぞれの場所で、それが直面する課題に向き合いながらも生き抜いてきました。性的指向や性自認をめぐる課題にも光があたりました。

そろそろそんな女たちが持ち場をオープンにして交流し、様々な経験を伝え合い、世代を超えた出会いが生まれ、力を蓄積するという、そんな場所を作つて行けたらいいのではないか、と。

目指すところの焦点は「国際女性デー」のその日。世界のあちこちで喜び合い、繋がり合い、怒りや悲しみを共有し、慰め合い、明日もその次も生きて、また会えるように。女+フェスティバルを開催します。「女+（プラス）」としたのは、「女であり〇〇である」という**交差する立場を生きる女や性的マイノリティに開かれた**集まりにしたいからです。この社会で解放を願うあらゆる人々を巻き込みながら、語り合い、つながっていこうではありませんか！！

## ●こんな感じで予定しています↓

9：30～12：00 シンポジウム 「なぜ今？30年ぶりのフェスタ」

13:00～15:15 分科会（案） 「部落フェミニズムから広がる地平」

「多文化共生とフェミニズム」「自分を大切に 自分を守るために 言いたいことを言おう」「ためたらアカンで！女の『労働』～何が評価され 何が

# 協賛団体募集中！！！

女+フェスティバルの趣旨にご賛同いただける団体の皆様に協賛いただけますと幸いです。お問合せ、協賛お申込みは以下よりお願ひいたします。

## お申込みフォーム→

<https://forms.gle/68q5emz1WGMvcqrV6>

※QRコードもご利用ください。

お問合せ：onna.plus.fest@gmail.com



国際女性デーに京都で『女+フェスティバル』を開催します

## 趣意書

「きっと今からは！」社会が変わって、もっと楽しく、自由に、尊厳を持って女たちは生きていけるはず・・・そんな希望を共有した歴史の時点は何度かありました。

例えばそれはかなり前、1946年女性にも選挙での参政権が与えられ、出馬も可能になった時、女性代議士は39人誕生しました。例えばそれは1985年女性差別撤廃条約を日本が批准するにあたり、平等法を作ろうという機運が高まり、その後国籍法が父母両系主義へと変わり、家庭科の男女共修が実現しました。その流れは1996年、民法改正の法制審議会へと引き続き、婚外子の相続差別撤廃と夫婦別姓が答申されました。日本の戦争責任と性暴力批判としての『日本軍「慰安婦」問題』が社会化され、性的指向や性自認をめぐる課題にも光が当りました。

さて、それからそれから・・・「3歩進んで2歩下がる」という具合に少しでも前へ進んでいければいいのだけれど、4歩、5歩と後退して行くその現象を「バックラッシュ」と呼びならわします。その嵐の中でも女たちは、それぞれの場所で、それが直面する課題に向き合いながらも生き抜いてきました。

そろそろそんな女たちが持ち場をオープンにして交流し、様々な経験を伝え合い、世代を超えた出会いが生まれ、力を蓄積するという、そんな場所を作つて行けたらいいのではないか、と。声を掛け合い、呼びかけ合い、たまたまアンテナがパシッと交差したところから、このフェスティバル実行委員会の準備会が始まりました。

目指すところの焦点は「国際女性デー」のその日。世界のあちこちで喜び合い、繋がり合い、怒りや悲しみを共有し、慰め合い、明日もその次も生きて、また会えるように。「女+フェスティバル」を開催します。

「女+（プラス）」としたのは、「女であり〇〇である」という交差する立場を生きる女や、性的マイノリ

実行委員会 阿久澤麻理子 荒木菜穂 伊田久美子 川崎那恵 姜喜代  
姜文姫

栄井香代子 周藤由美子 大道寺ちはる 村上潔 屋嘉比ふみ